

令和4年6月1日 議会改革特別委員会 議事録

13時00分 再開

○出席委員 (9人)

委員長 網谷 芳孝

副委員長 西村 一啓

委員 藤川 和弘、原田 孝徳、小中真樹雄、小田上尚典、北地 範久、
日域 究

議長 賀屋 幸治

○欠席委員 なし

○網谷委員長 皆さん、お疲れさまです。

休憩前に引き続き会議を続行いたします。

無投票を回避の打開策について具体的な理由づけでもできればという提案でございます。その辺のところから協議していただけたらと思いますが、どうでしょうか。

小田上委員。

○小田上委員 詳しくどれからというのが難しいのかなとは思いますが、最初から言っているとおり、立候補のしやすさ、魅力づくり、無投票がだめな理由、定数の変更とかというところを、大まかにそういう感じなのかなと勝手にこの三つぐらいに分けてみてやってみたらどうかと思っております。

立候補のしやすさというところで、さっき家族から止められるとか、そのハードルというのが、どういうハードルが立候補するのにあるんだろうというところと、なぜ止められるのか。止める理由で何なのかなというところを考えてみるのも一つなのかなとは思いました。

ちょっとそれが話すことじゃないよということであれば、ほかにハードルって何だろうというところを出していったりするのも一つなのかなとは思いました。

立候補のしやすさ、魅力づくりというところと無投票がだめな理由。あとは定数の変更。この三つぐらい、アンケートを見るとざっくりこの三つのテーマくらいかなと思ったりしたので。そこで、こう思うとかというところが出し合えたらいいのかなと思っただけです。

○網谷委員長 はい。ありがとうございます。

今、小田上委員が言われたように、ハードルを低くするためにはどういうことがあるんかと。立候補ということは、最初は家族だろうと思うんですが、その中の同意というんですか。その中の一番近い奥様ですか。その方からの同意というんですかね。ストップがかかるという、そういう意味ですかいね。それがなぜだということなんですが。

原田委員。

○原田委員 小田上委員の言われたこと、私も同意見なんですけど。要は、立候補のしやすさをどうするかということは、逆に言うに出にくい状況があるということじゃないかと思

います。

今日の午前中の議論の中で、ほぼ小田上委員が言われたと思うんですけど、家族の方の反対であるとかですね。例えば、落選したときのリスクとかもあるんじゃないかなど。出にくい環境の中には、お金の問題であるとか、サラリーマンのお仕事の関係とかあるんじゃないかなと思います。

それと魅力、小田上委員の言葉を借りて申し訳ないんですが、魅力という面においては、関心を持ってもらうために、議会であるとか個人の議員が、市民の声を聴いて歩いたり、そういうところで議員の仕事でこういうものだよとか、伝えていくという活動が必要なのではないかなと感じます。

無投票がどうかということは分からないんですけど、打開策というよりは立候補のしやすさ、魅力をどう伝えるかというようなことではないかと思うんですけど。打開策になるか分かりませんが、やっぱりお金の問題。例えば議員年金をどうするかとか、政務活動費増やすとか増やさないとかが一つ。それからハードル。ハードルというのが、もう少し議員定数を増やすということなのか、サラリーマンとか、そういう方にも出やすい環境をつくるという意味なのか分からなかったんですが、そのハードルを低くするということが一つと、それに関連するのかわかりませんが、定数を削減するというような、大きく三つが打開策のような気がします。

さっき魅力、立候補のしやすさって、逆に言うと出にくさとか、あと魅力をなかなか伝えられないということと言うと、先ほど私は議員が個々にそれぞれにいろいろと市民の方とお話する中で、議員でこういう仕事もできて、こういう魅力があるんだよと伝えていくことも必要ではないかと言ったんですけど、でもそれはある意味もろ刃の剣というのか、その逆もあってですね。なかなか同じ選挙区ですから、そういうことはなかなか伝えにくいというのもあると思うので、ここはちょっと矛盾してる意見なのかわかりませんが、午前中の意見は、おおむねそういうことだったのではないかなと私は思うのですが、皆様はどのように感じてらっしゃるかなと思って。

ハードルを低くするというのが、定数を増やしてハードルを低くするという意味なのか、出やすい環境をつくることで、例えばさっき貸付けの話とかあったと思うんですけど、貸付けであるとか、サラリーマンされている方が出やすい環境をどうやってつくるかという意味でのハードルを低くするのかわかるといのは、私分からないのでそれをお聞きしたんですけど、明確な回答が頂けなかった気がするんですけど。そのハードルを低くするということが、もしかしたら打開策になるのかなという意味で発言しました。

○網谷委員長 今、原田委員が言われたことは、それぞれの委員の皆さんが言われたことじゃけえね。全部正解なんですよ、これ。と僕はそういうふうに解釈しとるんですけどね。どれが正解とかいうて言われても、何か答える人も困るんでないかと思ひまして、ちょっと付け加えておきます。

今の原田委員の発言に対して何かあれば。

小中委員。

○小中委員 私は、他人がそのハードルを低くするというのはなかなか難しいと思うんです

ね。要するに、自分がどっちに重きを置くかというのは、個人が判断する話なので。家族がどうであろうと自分がやるかやらんかというのは、最終的には自分が決めることなんであって、それは他人がどうこうできる問題では全くないと思いますね。

それと、もうお金の話は私はやめたほうがいいと思いますね。そういう人に本当に市政なりを任せようという気になるかとかさ。そういうことを考えるとですね、あんまりお金のことを言うのはいかなもんかなと私は思いますね。政務活動費にしたって、政務活動費は出ない市町村だってあるわけだからね。

議員報酬にしたって、むちゃくちゃ低いわけじゃないわけやからね。基本的には魅力云々とかいうよりも、まず一人一人の使命感とかね。それがあかないか。それが議員の資質なわけですよ。私が言いたいのは、数さえ増やして定数より多けりゃええちゅう話じゃなくて、使命感を持って議員たる資質のある人がどんだけ当選してるかという話であり、そういう人がたくさん当選してほしいという願いを込めても私は削減し、競争率を上げたほうがいいのではないかと思います。

○網谷委員長 この会は、今討論じゃありませんのでね。皆さんそれぞれの意見を出し合ってるんですからね。意見は意見として尊重してください。お願いします。

原田委員。

○原田委員 今の小中委員の意見が一つの打開策だと思います。資質とかレベルとか、定数を削減したから100%レベルが上がるかとか資質が上がるかとかは分かりませんが、少なくとも競争があるということは、それなりにやはり皆さん危機感を持っているんな活動をされるでしょうから。そういう意味においては、小中委員のおっしゃるとおりだと思います。打開策の一つは定数の削減であると私も思います。

以上です。

○網谷委員長 はい。分かりました。ありがとうございます。

小田上委員。

○小田上委員 小中委員の言われたところで、資質とか使命感を持ってというのは、本当そのとおりだと思うんですね。そういう人が出てきてくれるべきですし、議会にはそういう人たちだけがいるべきだと思うので、そういう人が手を挙げてというところで、使命感が出た理由が何だったかなと思うと、奥さんが大好きな大竹よくしたいな、子供も育つ大竹をよくしたいなという思いで。

周りの人に応援してもらえないのとしてもらえないのじゃ活動も違ってくると思いますし、やっぱり手を挙げにくいのかなと。僕の場合は間違いなく奥さんに支えられて議員生活を送ってますんで。やっぱり支えるよって言ってもらえて立候補するのと、勝手にやったらと言って立候補するというと、またハードルじゃないですけどね、そういうところは違うのかなと。

議員で大変だろうけどいい仕事だよねと言ってもらえるにはどうしたらいいんだろうという話が何かできたらいいのかなと思いました。今聞いててですね。議員いい仕事だと思うんですけど、皆さんやめとけやめとけてね、言われたりもすると。何で言われるんだろうな。そこに出にくいとかですね、最後手挙げるところにまで結びつかないという

ところもあるのかなと思いました。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

日域委員。

○日域委員 無投票を避ける決め手はもちろんないですけども、無投票を避ける一番有効な手段はやっぱり議員定数の削減ですよ。議員に挑戦する人がいるとかいないとか以前にですね。

やっぱりチャレンジング精神とか、何か自分の使命感を持ってね、リスクを取って何かをやるという心意気ですよ。それが欠けてるんですけども、それはしょうがないとして。せめて無投票を避けようと思ったら議員定数を減すのが絶対ではないけども最も効果的です。そういう意味ではすべきかなと思っています。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ほかにございますかね。

藤川委員。

○藤川委員 家族の話がちょっと出ましたけど、家族どうでもいいという意見も家族は大切だという意見もありましたが、私は家族どうでもいいことはないです。家族が一番大事です。家族の賛成がないと私はここにはいませんし、子供のことも一番大切に考えないといけないのかなと思います。自分の親の顔が売れるというか、顔が出るというか、その立場になる子供さんのことも考えて出るべきだと私は思っています。そして私はこの選挙に出ることによって、それを勉強させていただいたので、今から新しく出る方には、私は私の経験を言っていこうと思います。家族は必ず犠牲になります。

私が出た理由を簡単に説明しますとね。私、十数年間大竹市の各イベント等をお手伝いさせてもらって、私が子供の頃に大竹市でたくさんイベントがあったんですよ。それで楽しかった記憶があります。それのお手伝いをしようと思って、私は年を取りお手伝いをしているんですけども、今ないんですよ。コロナの影響もありますし、コロナ関係なく今イベント減ってますよ。子供たちの笑顔が全く見られません。それを見たくて少しでも大竹市に近寄れば、議員になればお手伝いができるいうか、市民の笑顔が見れるんじゃないかと立候補させていただきました。

大竹市全体が暗いイメージというか、もうちょっと明るくなるような、そういう活動をどんどんしていったらいいのかなと感じております。

○網谷委員長 ありがとうございます。

議長。

○賀屋議長 今の家族の話で、家族の協力は本当に要るのかなというようなこともありましたけれども、それは志さえあれば自分一人で立候補できますし、本人がしっかりした意思を持って出ればいい話なんです。家族の犠牲という話もありました。一方的に見られて、奥さんだけじゃなしに、当然子供もね。本人も批判されるのはともかく、家族を批判されることに対して、非常に負担が大きいと。小さい町だからこそ、また1票1票支援者へお願いをして頭を下げて歩く町だからこそ、家族も評価の対象になると。本人が、ちゃんと

仕事しとるんだったらええじゃないかという話なんです、そうでない評価の仕方をされるというところが、家族に不利益が、迷惑がかかるということの中で、家族の反対があるとなかなか出ていけないということだろうと思います。

以上です。

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 ちょっと弁明させていただきますけれど、私は別に家族がどうでもええとか言うところではなくて、要するに障害となるちゅうかね、立候補するかどうか家族が反対しようがどうしようが、最後は自分が決める話だということ言ってるんであって、別に家族が反対しても自分が絶対やるという気持ちがありやあ、それはやるんであり、そういうことを言ったんであって、家族がどうでもええと言っただけではありませんので、その点は誤解のないようにお願いします。

○網谷委員長 ありがとうございます。

打開策ということなんで、まだいろんな理由といたしますか、そういうのがあるんじゃないかな、もちろん家庭の事情は第一に考えられることは間違いありません。ただ、議員になるための一つの宿命みたいなもんですから、これほどこの家庭も同じようなもんだと僕は思います。

そうした中で、打開策ということなんでね。無投票ということは魅力がないということなんです。それだけ一般市民が立候補しないということなんです。ということはなぜかということね、今議員の成り手不足の中でよく出てくるんですがね、社会保険、またはもちろん退職金、それも一つの理由づけであろうと思います。それから年金はもちろんないですね。退職金は出るかもわかりませんが、年金が一番ネックじゃないかと僕は思っております。もちろん報酬は高いのいいのに決まっておるんですが。その辺のところの話がもう少し掘り下げて出ればどうなんですかねと思ひまして。

原田委員。

○原田委員 ちょっと私頭が悪いので、うまく整理できなくて申し訳ないんですけど、午前中からここまでですね、いろいろこう議論してきた中で私なりにちょっと整理すると、打開策の一つに、まず定数削減があるということは数名の委員のほうから出てますので、これをどうするかということではないかというのが一つと、家族の問題とか、お金の問題とか、一言でまとめるとリスクがあるということじゃないかと思ひます。そういうリスクがあるために出にくい現状あるというような議論だったような気がするんですが、合ってますでしょうか。

○網谷委員長 合っております。

小田上委員。

○小田上委員 いろいろこうしたらどうですかというのを言わせてもらって、委員長には対応してもらって進んでいって、家族の話というところで多分同一テーマで一番今までで盛り上がったんじゃないかと思うんですね。

その盛り上がった理由を考えると、皆さん多分そう思われてるんですね。議員になるということは周りの見る目が変わるよと、公人なんだし。議員でそういうもんだよと。そ

の周りの見る目が変わることに対して、やっぱりあんまりいい印象を持たれてないんじゃないか、想像できるわけじゃないですか。ならなくても。

でも、そこをここにいるメンバーは越えてきていると。何で越えられたのかというところの越えられた理由をもっと増幅、大きくしてあげることができれば立候補しやすい、してもいいかなと思いやすいところになるのかなと思ったりして、何か話がちょっとずつ前に進んでるような気が今しています。

定数もあると思うんですけど、あと年金とかもそうなんですけど。ただ、大竹市議会で大竹の議員で、ある意味簡単に言うたらええ人たちばかりですよと。真面目な人たちばかりですよというのが、大竹の議員でいいもんよというのをできんかなというふうに思ってるんで、僕がハードルを越えられた理由は何ですかね。どうやって越えられたのかという経験談を伺ったら、じゃあそれをもっとPRしたらいいねみたいな、ところにならないかなと話聞いてて思いましたけど、いかがでしょうか。

○網谷委員長 ありがとうございます。

今、小田上委員が言われたとおりでございます。小田上委員は確かに若いんで、小田上委員から見た議員の皆さんの印象と我々が見たその頃の、もう半世紀ぐらいになるんですが、その頃に見た議員の魅力といいますかね。魅力が前よりは薄くなったかなというぐらいはあるかもわかりませんよ。魅力がないとは私自身は思っておりません。魅力がないと思っとたら誰も出んでしょうねと思うんですがね。

それはそれとしまして、それがこれからの魅力づくりにつながっていくんじゃないかなと思うんですがね。いかに自分が市民に対してどういう態度を振る舞うかというようなことにもつながっていくと思いますかね。私の意見を言ってもしょうがないんですが。

北地さん何かありますか。

○北地委員 無投票を回避するための打開策というテーマで今話が進んでいるわけなんですけども、このアンケートの中で2名の方が立候補のハードルを低くすること、下げることができるかというのが挙がってるわけなんですけども、これが一番なのかなとは思っています。

先ほどちょっと原田委員、誤解されとる部分があるんかなと思いますけども、ハードルを低くすることについて、議員定数を増やすというふうな発言があったと思うんですけども、これは立候補者を増やすというふうに書かれてありますんで、ちょっとその辺は誤解かなと思います。

立候補者を増やすためにハードルを低くすることが今議論になつとるわけなんですけども、そのハードルを下げるという意味合いで家族の話も出ました。確かに最終的には本人の意思を持って出るわけなんですけども、当然、家族の協力とかそういうのも要るわけで、家族の問題も非常に重要な点にはなろうかと思えます。

そういったことで、周辺の環境というのもどうしたらハードルが下がるかというのと、出ることのどういうふうな家族に納得してもらえるか。それは小田上委員言われるとおり、その辺を話合って何があるかというのを議論していけば、その辺は解決していくのかなと。それは思うんですけども、なかなか具体的に出ても、これは難しい話になろうかと思えますのでね。

この中にもいろいろ提案があるわけですね。先ほど、一番の方法は定数を削減することかなというのもありましたけども、これは町村議会の統計になるかと思うんですけど、資料にもありました、定数が少なくなるほどハードルは上がっていくよと。無投票の確率も上がっていくよという統計的なものがありまして、それがまさに先ほどの御意見とどうなるのか。定数を下げることによって無投票はなくなるのか、本当にどうなのか。これも確約も何もないわけですね。定数を下げたところで無投票を回避できるかどうかというものは、要は、それよりかは立候補者は増えることを考えるほうがいいのか。だったら無投票なくなるわけでしょう、多分ね。辞める方がたくさん出れば、それはまた話変わってくるんでしょうけど。要は立候補者をどうやって増やしていくかという話になったと思うんで、市民が政治に関心を持てるようにとかいろいろ組んでいろいろ出させていただいておりますけども、その辺は1点ずつ並べていったらどうなのかと思います。16番であります、女性や若い世代などの幅広い層に議員を目指していただくとか、そのために議会に招いて意見交換を行うとか。こういったこともいいことじゃないかと思っておりますけども、それを誰がするんかというような話にもなります。

その下のお金の件については、これ下手したら寄附行為になるとあかんから。誰がこのお金を出してどうやるんかなというのも出てくるので、お金の面はちょっと厳しいかなとは思っています。

それとあと先ほど出ました、年金やら保険関係。そういったことも出てきましたけど、そういったことは国レベルの話になるのでここで議論するのはいかがだと思います。テーマの中にはそれを挙げていっておけば、そういう議論をしたんだよということは残ってきますので、そういう話もしたらどうかなと思います。

そういうふうに、この中から拾っていけば、ある程度は議論できていくのかなと思います。たちまちはこのハードルを下げるというのが、原田委員のほうからもどうすればいいのだろうかという疑問が出ておりましたので、その辺はちょっと掘り下げて話をしていけば、多少なりこの打開策という方向が、直ちにできるとは思いませんけども、中長期的な話とかそういったことの中で、ある意味議論ができるのかなという思いはありますので、そういった方法はいかがなかなと思います。皆さんの御意見を伺いたいと思います。

○網谷委員長 はい、ありがとうございます。

日域委員。

○日域委員 無投票を避けるにはどうするかというのが今の、与えられた命題ですから。北地委員のおっしゃったこと、私ちょっと反論しましたけどね、議員定数を減したら、無投票が増えるという理屈がもしあるとすれば、今言ってることが全く根底から無意味になるわけですからね。どういう根拠で言ったんかって、それを言うてもらわないと、これ以上審議する意味がないですよ。出典というか、教えてください。そんなね、減したら無投票が回避できるかもしれんというときにね、減したら余計無投票になるんだと言ったらですよ。この議論が全く根底から無意味ちゅうことになるじゃないですか。

○網谷委員長 北地委員。

○北地委員 アンケートを取ったときの資料です。その中に、そういう統計的なものが、数

字があったという話です。ただ単純にそれだけの話です。

○網谷委員長 議長。

○賀屋議長 今の話は、このアンケートのときの資料で添付されとった一番最後の分にあるんですが、この前も話をしましたけれども、総務省が、町村議会の在り方に関する研究会という報告書を2018年3月に出しとるんですが、それから引っ張り出しとんです。その町村議会で1,000人未満の団体が全国で17団体あって、その無投票の割合が64.71%、その議員定数が7.07人、平均年齢が62.23ですね、平均年齢が。要するに小さい町村であれば、定数が減れば当然町は小さいんで、誰が出たら誰が落ちるとか通るとかいうのは分かるんで投票に行かなくなるという、そういう傾向ではないかという目安なんですよ。だからこれは大竹市というか、市に該当する研究会ではないんでね。これを添付された方、どなたか分かりませんが、これはちょっと大竹市の中では、これは資料としてはいかがなものかというふうに思いました。そういう説明を前回させてもらったかとは思いますが。確認を、まずしてください、先に。

○網谷委員長 暫時休憩します。

13時41分 休憩

13時49分 再開

○網谷委員長 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

○原田委員 要するに、今、日域委員が言われたことというのは、総務省がつくられたこの表というのは、あくまでも町村議会とかそういうところのレベルの話で、この数字は参考とするとしても、小中委員が言われたように、決して定数を減らしたからといって無投票になるというような根拠にはならないということの、あくまで参考資料ということで。まあ見とってくださいぐらいの感じでいいですよ。はい。分かりました。

○網谷委員長 以上、上手に原田委員に解説していただいたんで、そういう方向でよろしくお願いします。

ほかに意見がなければ、まとめに入りたいんですが。

16番目の方のハードルの今議論がかなり熱を帯びとるんですがね。このハードルだけでもどういうハードルがあるか、皆さんお気づきの点があればちょっと述べていただいたらと思うんですが。ハードルを低くする。この表の中では女性や若い世代との意見交換の機会を持つとか、選挙資金の貸出制度を創設するというふうに、これは書かれとるんですがね。そのほかに何か皆さんが思いつく点がございましたら。

小田上委員。

○小田上委員 そうですね。小中委員が言われた資質のあるというか、そういう議員として素養の備わった人、志のある人という者がしっかりと選挙によって選ばれる。本当に民主主義の理想なんですけど。だからこそ競争率を上げないといけないと。競争率を上げて選挙をしないと、そういうことにはならないというものと、ハードルを下げるという行為は、ある意味逆なところもあるとは思いますが。定数を減らして倍率を高くしてあげれば、ハードルは上がります。ただ、当選する確率というところでのハードルは上がると思うんですが、ほかのところでは下げてあげるとかですね。今もこの状況なのに定数を少なくするこ

とでハードルが上がって、立候補する人がいなくなるんじゃないかという思いを持つ人もいるかもしれない。今いる現職の議員が出る、もちろん新人も出てくるというところで定数を削減していれば投票につながる選挙になる可能性は高いというのもすごく分かる。

なので、単純にハードルで定数の話をすると、定数以外のハードルを出して整理してたほうが、後々定数のところも整理しないといけないですけど、この後。その前に定数じゃないところを整理してあげるほうが分かりやすいかなとは思いました。

○網谷委員長 定数じゃないところを教えてください。原田委員、教えてください。

原田委員。

○原田委員 意味が分かったというのはですね、ハードルを低くするというのと、定数を削減するとハードルを低くするという事にならない。その辺の低くするという事と削減するという事は相反することになるかも知れないから、このハードルを低くすることは、定数の問題はちょっと置いて、ほかに方法があるかを考えましょうということで私は理解したということです。今の話の理解ができたということで、このハードルを低くするための定数を除いた方法が何かあるかというのは、すみません。今から考えたいと思います。

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 非常に悲観的なので申し訳ないですけど、そのハードルを下げるということを人為的にやるというのは非常に難しいと思います。

魅力づくりというのは私もよく分からないんですけど、どんだけ出る気になる人を増やすかなんだけど、それをハードルを下げるということをやるといのは、なかなか私は難しいと思います。

○網谷委員長 小田上委員。

○小田上委員 そうですね、自分で乗り越えてきた人間がここにいるんで、何ともそこは難しいと思います。別にこだわっているわけじゃないというかですね、議員に対して市民の方が期待も含めてですけど、目が変わるじゃないですか。その目が変わるところという部分をもうちょっと穏やかにするというかですね。議員になった瞬間に例えば先生と呼ばれるようになるのかですね。あくまでも市民の代表としてこの場面にいるので、市民と溝というかですね、あなたは公人という立場ありますけど、出るんだろう。そこが市民との溝が少なければ、距離が近ければ、いいじゃん自分もやってみようかに近づくのかなと。それができるのは現職の議員なのかなと思ったりもします。

先生と呼ばれると、壁ができるじゃないですか、どうしても。市民の代表になった瞬間に、ある方からは先生と呼ばれるようになったりするわけじゃないですか。それだと明らかに市民の代表ではあるけども、もちろん責任も負ってるけども、距離が離れ過ぎて市民と遠い存在になったよねっていうふうに思われる節があって、そういうところが嫌だなとかですね、というのがあるんじゃないかなと思います。

別に先生と呼ばれることが嫌だとかじゃないですけど、壁の象徴としてですね。市民と溝ができて、その象徴の一つとして先生という言葉もあるのかなと思ったりしてます。プラス、今、議員の活動をしていく中で、これ困ってる、ここ変えてほしいなと思うとこ

ろあると思うんですよね。それを改善することができたら、今現職の議員が仕事しやすくなる、活動しやすくなることは魅力が増すことになって、うちの議会いい議会だよ、大竹市議会は仕事しやすいよと。議員としての活動しやすいよという魅力づくりにはなるのかなというふうには思うんで、これ困ってるという課題を出して行って、それが解決できればいいのかなとは思いますが。

○網谷委員長 原田委員。

○原田委員 小中委員の言われるように、人為的にやっぱりこれを解決するとかですね。例えば家族の問題とか会社の問題とかというのを、じゃあ議長が挨拶に行って、じゃあそこを回避できるかといったら、そういうような問題ではないので。それも個人の努力というか、何とかしてもらえないかなと思うんですけど、小田上委員が言われたように、やっぱりそれは現職の一つの役目、役割としてですね。別に立候補を流すとかいうことではなくて、自分たちが議員活動していく中で魅力を伝えていくというようなことを言われたんじゃないかなと思うんですが、まず手本を見せるというほど私何もできてないので言えないですけど、でも恐らくベテラン議員の方はそれができると思いますから、やっぱり議員でこんなに魅力のある仕事なんだよということをですね、いきなり全員に伝えるというのは難しいかもわかりませんが、議員活動していく中でそういうものを伝えていく。そこでもしかしたら関心を持つ方もいらっしゃるかもわからないし、難しいかもわからない。だけど、現職が今そういうふうな形で、こういう魅力があるんだよいうことをアピールするとかですね。議員活動をしていく中で、市民で見てると思いますから、議員でなかなか面白い魅力あるな、そういう仕事だなと思ってもらえるような活動することなんじゃないかなというふうに、このハードルということ言えばですね。というのが今ちょっとお二人の意見を聴いて、私がそう思いました。

以上です。

○網谷委員長 はい、ありがとうございます。

今の先生という言葉が出たんですけどね、我々が議員になる前、経験がゼロの場合、そのときのほかの市議会議員の皆さんを見て、すごいなと思いませんでした。僕は思うんですがね。

まあいろいろな感じ方もあろうかと思いますがね。僕自身はそう思ってますね。ほんでいざなったら、どうってことないなみたいな、ちょっとそういうふうなニュアンスにもなるんじゃないかね。やっぱり人間経験がないとね、やっぱりその経験をされた方に対してはすごいなとかね。ちょっと尊敬の念をお持ちのところが一般論としてあるんじゃないかなということで、先生と言われても、その人が今、小田上委員が言われたように違和感がある人もおりやあ、まあええかぐらいに思う人もおるし。それは千差万別でそれはそれでいいんじゃないかと私は思うんですがね。

○日域委員 今やることが問題なくてちゃんとできてると思ったら、それでいいじゃないですか。今やってるのが問題があるからね、手を挙げるんですよ。私は油見ですけども、うちの周りに議員いっぱいいました。私から見たらろくな人がいません。こんな人が決めるんかって。皆さん立派で私が立派じゃなかったら、こらやめとこうってなるじゃないで

すか。いや、これじゃあいけんと思うから出るんですよ。出るけども支持がなかったら落ちるし、支持があったら当選する。それは議員であれ、首長であれ、全部そうですね。だから、今のがええと思ったら、その人を応援してあげたらいいわけですよ。単純にね。

だから、前から言うけど、これ仕事じゃないんですよ。あの発想はちょっと私違和感を感じますよ。要は、我々が物を決めるんですよ。大竹市の認印みたいなもんですよ。よくね、どういう考えか聞きたいというのは、そらプロセスとして考え方あるでしょうけども、最後は議案に対してイエスと言うか、ノーかと言うかで、それがどんな理由であれ、どんな変な考えであれ、イエスと言ったら議案通るし、ノーと言ったら議案は通らんわけです。その役割ですからね。だから今やることが皆さんいいと思えばね、我こそはって言わないんじゃないかという気もします。難しいとこですけどね。

○網谷委員長 分かりました。ありがとうございます。

小中さん、何かあります。

○小中委員 いや、別にないんですけど、一応発言の機会を頂いたんで。

はっきり言って議員は住民の、御用聞きではないと私は解釈してます。絶対これはみんなが困ってるちゅうんやったら別やけど、個々の人間の取り次ぎをするために議員があるんじゃないと思っとるし、それで落ちるんやったら、それはそれでしょうがないという覚悟を持ってます。だから私は定数削減でも、その選挙やらなあかんから定数は削減すべきだという主張は、一切変わりません。私も市民だしあんたも市民やと。1対1やと。だから先生なんちゅうつもりは全くないけども、私は違うことは違うて。そんな市民だろうが何だろうが、あんたそらちゃうでと。それはちゃんと言わせてもらおうと。そういう私は信念でありますので、まあそういうことですわ。

○網谷委員長 ありがとうございます。ハードルを下げるのはどうかということで、これには定数は関係しないようなハードルの低さはどうなのかなということなんです。

はい、議長。

○賀屋議長 ハードルの話なんですけど、立候補を多くしてもらうためにはハードルを低くしてほしいという意見なんですけど、それじゃあどれだけのハードルが何か所あるんか。まず課題を、どういうふうに洗い出すかということじゃろうと思うんですよ。

今いろんな話が出る中で、いわゆる個別で解決をしないといけない課題、ハードルというのは、それはさておいて、公的に、あるいは議会として、これは見直したらいいんじゃないかというようなハードルがあるとしたらね、そういうものを洗い出して課題として、大竹市議会ではこういうことになっとるけども、ここについてはもう少し寛容にすべきであるとか、この辺をもう少し広く広報するべきであるとかね。そういうところのハードルとされるものが、どういうものなのかということからの議論をしていかないと、この話は進まないんじゃないかなと思いました。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

何か今の議長の意見に対して、思い当たる点がございましたら。

なかなか結論が出ませんので。

一応、7日の13時から議会改革特別委員会を開催いたします。

それでは、今日はこの辺でよろしいですかね。宿題はですね、7日の場合は今日のこれだけにいたします。無投票回避の打開策で、宿題としましては立候補のハードルを低くする、そのわけ。理由。

○賀屋議長 どういう種類でどれだけの数があるんかという。

○網谷委員長 先ほど言いましたように、議員定数を除いての理由づけを皆さん考えてほしいということで。考えとってくださいと。

それから、その日には無投票回避の打開策のまとめも一緒に行いますので、それも文章的にも皆さん考えとっていただいたら。そういうことで、早く結論が出れば早く終わるし、要所要所だけ皆さん発言していただいたら。いろんな堂々巡りが出るのがありますのでね。そういうところを気をつけていただいて、なるべく端的に分かりやすく皆さんの発言を期待しておりますので、よろしくお願いします。

それでは、以上で議会改革特別委員会を閉会といたします。お疲れさまでした。

14時17分 閉会